

小論文課題

第一問 次の英文を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の都合で掲載しておりません。

著作権の都合で掲載しておりません。

[問い]

- (1) 著者はどのように **nationalism** をとらえていると考えられるか、述べなさい。
- (2) それに対するあなたの考えを述べなさい。

第二問 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

八月十六日以来、わが国民は、思いがけず、見馴れぬ配給品にありついて戸惑いしている。——飢えた我々に「自由」という糧が配給されたのだ。

これによつて我々の飢餓が癒やされるであろうというのは、正しく間違いない理論である。然しこの理論の間違いなさと、実際に飢餓が解消するということは、これ亦別のことである。何故なら要するに「自由」とは我々の到達すべき結果の状態をいうのであり、今はそれが手段としてあてがわれているのだからだ。

私は今更不ざまな戦時中の政治の死屍に鞭つ興味を持たぬ。その頃「自由主義を撲滅せよ」というスローガンの下に、彼等の頭の悪い観念論に同化し得ぬ風潮を味憎も糞も一しよくに葬ろうとしたのに対し、今更「自由」の旗印の下に共同戦線を張つて復讐をすることは、これ亦反撃の相手と思想的レベルを同じゅうすることだからである。

然し自由も配給品の一つとして結構珍重されている。元来配給品というものは、手近に代替物が得られ難いこと、糧としての価値が全然無価値ではないこと、決して純粹ではなくて栄養分の若干ある数種の雑穀の混ぜ物であることなどを不可欠の要素としているが「自由」も亦この性格を欠いていない。人気があり、重宝がられる所以だ。どんぐりの栄養価を持った衛生無害な政治家や思想家が輩出するわけである。

しかも今の場合、この自由が亦舶来と来ている。舶来品も食物なら口から腹へ通せば先ず間違いないのだが、自由の対象が思想であれ制度であれ、それが翻訳され方策化される間に、ついその真意が逸脱してしまう。

一例を挙げよう。選挙の公正な徹底を期することは大によろしい。然し問題はかくして獲た民意から間違のない輿論を形作りそれを如何に正しく合理的な政治力と化するかにある。その訓練なくして大選挙区制と比例代表の得失を論じても無駄だ。

といつて私は或る種の人々の如く、頭ごなしに日本の民衆は無智であり、政治性が貧困であるとするとするものではない。「泣く子と地頭には勝てぬ」という俚諺から、日本民衆の政治に対する封建的盲従と諦観をのみ結論する者は、真に日本を知らぬものである。この諺は半面に政治に対する民衆の嘲笑的な無関心を含んでいる。誰が「泣く子」に至上の権力を感じていようか？かかる政治からの超脱が日本人の弱点であり、美点でもある。この洒脱さ故に我が国民はこの未曾有の敗戦の下に、外人には無気味な冷静さを以て、徹底した自然的生活に沈潜していられるのである。

或いはこの敗戦を戦争責任者の失敗と怨むより、いわば天災の一種と観するものが、伴らざるわが国民の良識に近い。かかる時専ら戦争責任者へのヒステリックな憤激を喚き立てることが「言論の自由」だとすれば、民意は必ずしも言論の自由の中にはないかも知れぬことになる。

自由主義とは元来思想的な立場をいえばアンデバンダンの側にあり、オーストクスに反抗するものの謂である。然るにわが国の自由主義者とは、左翼華かなりし頃温健な中庸派で、性格的には退嬰的なものが多かった。今時代が二度転向して彼等が急にこの危機時代の指導者として迎えられるても、積極性は期待出来ぬことは勿論である。それにこの際国際的には当り障りのない文化主義を担ぎ出せば間違いないといふので、この自由主義的文化主義が、時代の前面に押し出されて来た訳だ。

然し、現在日本は戦時中よりも増して、乗るか反るかの危機にある。大体政治上の文化主義というものは、内容の文化の実質は二の次にして、形だけ整えた政治のカムフラージュや政治の代用品であり乃至政治の威を藉りた文化の張り子の虎である。それが如何に愚劣なものであるかは、戦時中厭という程我々は見えて来た筈だ。それを今内容だけ反対のものにすげかえて再びやって見ようという御座なりは決して許さるべきではない。

今やあらゆる文化による政治工作、文化団体、文化事業の解消すべき時である。文化は一と先ず文化自体に返って己が身についた身上を総決算して見るべきだ。作家は書齋に、画家はアトリエに帰らねばならぬ。自らの武力で買いつけて痛みに遭ったわが国の非運を、再び文化の上で繰返すべきではない。今のように文化界がお調子に乗っている危険は、いくら警告しても足りない。

政治、軍事、経済すべての面で手足をもちたわが国の唯一のホープは文化である。その文化がこれでは、忽ち対外的に見透かされて、救いのない四等国に墮するであろう。

文化の自由とは囚われざる批評精神を持つこと以外にない。この意味で文化人は一応対社会的立場や政治的陣営を去って自分に返って出直さねばならない。現在の危機に文化人の運命は必ず孤独だ。それを恐れる人は真の文化人ではない。我々の眼前には泥沼の如き混沌たる深い霧が立ち籠めているが、然しこの霧を消散する手段を構することは文化の任務ではない。

従来の政治的文化主義の錯覚はそこにある。文化の力は如何に濃い霧でも、それを透して彼方に見える強烈な光と自ら化することだ。

今頻りにいわれている文化日本の再建ということ、現下に展開された世相とを考え合せて見るに、どうやら日本は二十数年前の私の青年時代に似た風潮に一と先ず辿りつこうとしているものらしい。それは一方に左翼の峻厳なイデオロギーが叫ばれ、他方にはスポーツや映画やアメリカニズムの近代生活が風靡し、そして思想界一般には混沌たる自由主義の支配下にあつたものだ。然し当時にあつてはともあれ、それ等が何等かの必然性を以て自然に追求されていたのが、今では人為的、後天的にかかる状態を設定しようとしているのだ。

だから今日の文化は、現実の理想からも絶望からも等しく我々の眼を覆い、そういう宙ぶらりんの状態に我々を繋ぎとめる軽業を狙っているようなものだ。文化の諸条件だけ具えた合成酒を創るようなものである。我々はそんな甘い救に惑わず、真剣に孤独のうちに悩まねば、真の自由は獲られないのである。

(初出『東京新聞』1945年10月26・27日掲載)

[問い]

この文章は、文芸批評家の河上徹太郎が1945年10月に発表した、「配給された自由」という文章である。

あなたが、入学後のゼミナールで、「この文章を手がかりに、任意のテーマで研究論文を作成しなさい」という課題を課されたとする。その場合、あなたは、①どのような研究テーマを設定するか。②そのテーマを選んだ理由は何か。③そのテーマを追究するために、どのような事柄を、どのような手順で調べていけばよいと考えるか。①・②・③をふまえて、あなたの研究論文構想を述べなさい。

以上